

龍ヶ崎市政策情報誌「未来へ」

あ
す
へ

写真：蛇沼公園

- 『第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン』…………… 2～3 p
- 龍ヶ崎市公共施設再編成の第2期行動計画…………… 4～7 p
- 「龍・流連携事業」により相互に成長する
龍ヶ崎市と流通経済大学…………… 8～9 p
- 「常磐線佐貫駅発車メロディー」をリニューアル…………… 10 p

2017年6月
第23号

発行：龍ヶ崎市
編集：総合政策部企画課
TEL 0297-64-1111 (代) 内線 363
FAX 0297-60-1583
URL <http://www.city.ryugasaki.ibaraki.jp/>
E-mail kikaku@city.ryugasaki.ibaraki.jp



ひとが元気！ まちも元気！ 自慢したくなるふるさと龍ヶ崎

『第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン』

本市が目指す **4つの** **日本一** の旗

▶子育て環境 ▶市民活動 ▶防災減災 ▶スポーツ健康

問い合わせ 企画課地域戦略グループ ☎内線 363

「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の取組スタート

平成29年4月より、本市のまちづくりの基本方向を示す最上位計画「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の取組みがスタートしました。

本プランは、長寿社会が進展する一方で、少子化を伴う人口減少社会が急速に進行するなど、これまで経験したことのない社会の変化を的確に捉え、将来にわたって活力ある地域社会を形成することを目的に策定したものです。前プランの考え方を基本に据えながら、将来ビジョンとして本市の将来都市像などを掲げるとともに、地方創生、教育、行政改革などの視点を取り入れた計画としています。

今号は、前号（第22号）でお知らせした本プランの全体像の中から、スローガンとして掲げる**4つの重点目標**（子育て環境日本一、市民活動日本一、防災・減災日本一、スポーツ健康日本一）の考え方などについてお知らせします。

前プランからの重点目標の継続

平成23年度に策定した「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（前プラン）」では、市民活動の推進と子育て環境の充実を重点施策に位置付け、ともに日本一を目指したまちづくりを進めるため、「子育て環境日本一」と「市民活動日本一」を標榜し、高い意識と強い意気込みをもって、特徴的な取組や各種事業に取り組んできました。

◆「市民活動日本一」の取組

市民活動推進の取組としては、協働のまちづくりと地域力アップに向けて、地区コミュニティセンターの活動範囲から成る中核的な地域コミュニティの活動が11地区で開始され、その他の地区においても準備会等で検討が続けられているなど、着実に前進して

います。特に中核的な地域コミュニティが設立された地区においては、地域と行政の橋渡しとなる市職員を地域担当職員として配置したところです。

また、市民活動の活性化を図るため、指定する市民活動に参加した際にポイントシールを交付する、まちづくりポイント制度の構築を開始しました。

こうした取組などにより、まちづくりへの参加、特に市政への参加やコミュニティへの参加などをはじめ、意識をもって地域活動に関わっている市民の皆さんが増えるなど、一定の成果を上げることができたところです。

長寿社会の進展とともに少子化による人口減少社会が本格化する中、「公共を皆で担う」という考え方の重要性が一層増していくと考えられます。このため、今後も引き続き、市民協働の取組拡大に取り組んでいくとともに、

「誰もが活躍する場が増えている」、「このような環境を中核的な地域コミュニティ形成を柱につくっていくことが必要と考えています。



◆「子育て環境日本一」の取組

子育て施策の取組については、「子どもを産み、育てるなら龍ヶ崎」と思っていただけのような充実した子育て環境の創出に向けて、日本一を目指すという強い意気込みをもって、取り組んできました。

具体的には、子育てに係る負担を軽減するため、一時保育や延長保育に係る費用の2分の1を助成する「たつこの預かり助成事業」を創設したほか、子育て環境日本一のアピールをするため「こどもまつり」の開催、遊びの拠点づくり（大型遊具の整備等）を進めてきたところです。

また、イベントやお出かけしやすい環境づくりのため、「たつのこ育て応援の店」や「移動式赤ちゃんの駅」を創設し、さらには、子育てに関する相談・情報提供を充実させていくため、「子育て支援コンシェルジュ」を設置しました。

昨年度は、保育所の送迎にかかる負担軽減や親子のふれあいの場を提供するため、「駅前こどもステーション」をオープンし、また、保育士不足の解消に向けて「保育士等修学資金貸付制度」の創設、さらには、学童保育ルームの拡大（6年生まで）、そして、本年度からは、高校生世代までの医療費を助成するなど、ライフステージに応じた様々な取り組みを進め、一定の成果を上げることができたと考えています。

一方、本市の合計特殊出生率は1.3前後で推移している状況であり、今後も少子化問題は重大な課題です。

このため、これまでの取組に加え、若者・子育て世代の移住・定住促進に向けた取組を進めるとともに、平成28年12月に発信した「子育て応援都市宣言」を踏まえ、行政だけでなく、家庭・学校・企業を含めた地域社会全体で子育てを支援していく環境づくりを進めていくことが重要と考えています。



平成 28 年 6 月にオープンした
駅前こどもステーション

「子育て環境日本一」と「市民活動日本一」の2つについては、前述で示したとおり、前プランで重点的に取り組むものとして掲げたのですが、長寿社会の進展や少子化を伴う人口減少など現在の社会情勢などを考慮し、引き続き推進すべき取組であるため、本プランでも継続することとし、新たに「防災減災日本一」「スポーツ健幸日本一」を加え、4つの日本一の旗（重点目標）を掲げました。

◆「防災・減災日本一」のまちづくり

自助・共助・公助のバランスの取れた取組により、いつ発生するか分からない災害に対し、市民、地域、行政が一体となって対処できる「防災・減災日本一」のまちを目指します。

これまでも本市では、あらゆる面で災害に対する備えを強化してきましたが、首都直下型地震の発生が危惧される中、全国各地で度重なる自然災害が発生し、かつ、被害が甚大化する傾向にあることから、今後も継続して、防災基盤の充実を図るとともに、消防団を中核とした地域の防災体制の充実を図ります。

◆「スポーツ健幸日本一」のまちづくり

スポーツ・運動を通じた市民の健康づくりを推進することで、健康寿命の延伸を図り、市民の皆さんが生涯にわたり健やかで幸せな生活を送れる「スポーツ健幸日本一」のまちを目指します。

します。

本市では、高齢者が健幸な長寿社会を目指すための具体的な取組の一つとして、誰でも気軽に安心して歩けることを基本コンセプトとして、身近なコミュニティセンターを起点に設定した「てくてくロード」などがあります。そこでポールウォーキングを体験できる健康ウォーキング講座を開催するなど、全市的に強力的に健康づくりを推進していく意気込みで取り組んでいきます。

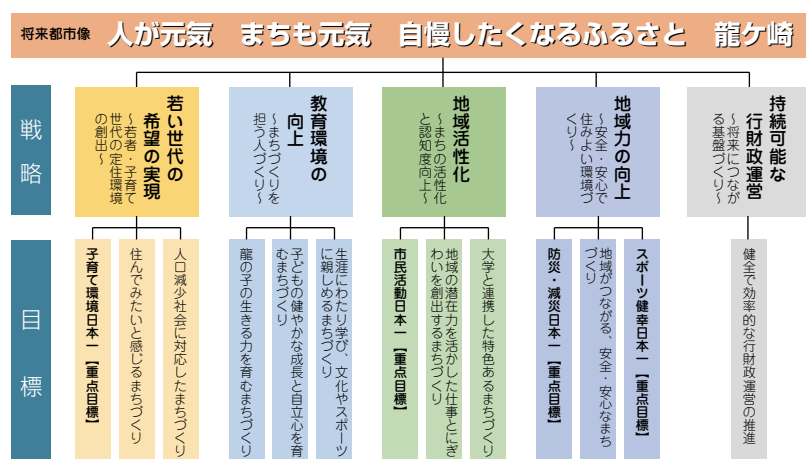


てくてくロードの看板

本市では、「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」に掲げる将来都市像（人が元氣 まちも元氣 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎）の実現に向け、市民の皆さんとの思いを共有しながら、4つの重点目標に位置付けられた取組を進めていきます。

「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」については、市公式ホームページをはじめ、市役所1階・市民情報コーナー、3階・企画課、西部・東部出張所、市民窓口ステーション、各コミュニティセンター、市民活動センター、中央図書館などでご覧いただけます。

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プランの全体像



次号（第24号・9月発行）では、重点目標の一つ「スポーツ健幸日本一」に掲げる、推進すべき重点施策や具体的取組などについて、現状や課題なども含めながら、お知らせしていきます。





「子ども達が大きくなった時、できるだけお金の負担をかけたくない」、そう考える方は多いことでしょう。長寿社会が進展する一方で、少子化を伴う人口減少がさらに進行し、税収増加が期待できない現状において既存の公共施設を全て維持更新していくことは非常に難しいものとなっています。これが、次世代となる子ども達の足かせとなることは必至です。

本市は、公共施設を減らしても施設価値を向上させることを目指して、公共施設再編成の第2期行動計画を策定しました。まずは、これまでの第1期行動計画の取組状況を、その後に第2期行動計画の概要をご紹介します。

はじめに 第1期行動計画の取組状況

2014年度から2016年度にかけて取り組んできた第1期行動計画では、個別施設の見直しをトライアル事業と位置づけ、機能の複合化や多機能化、さらに民間事業者のノウハウ活用など公共施設再編成の具体的な検討に取り組んできました。

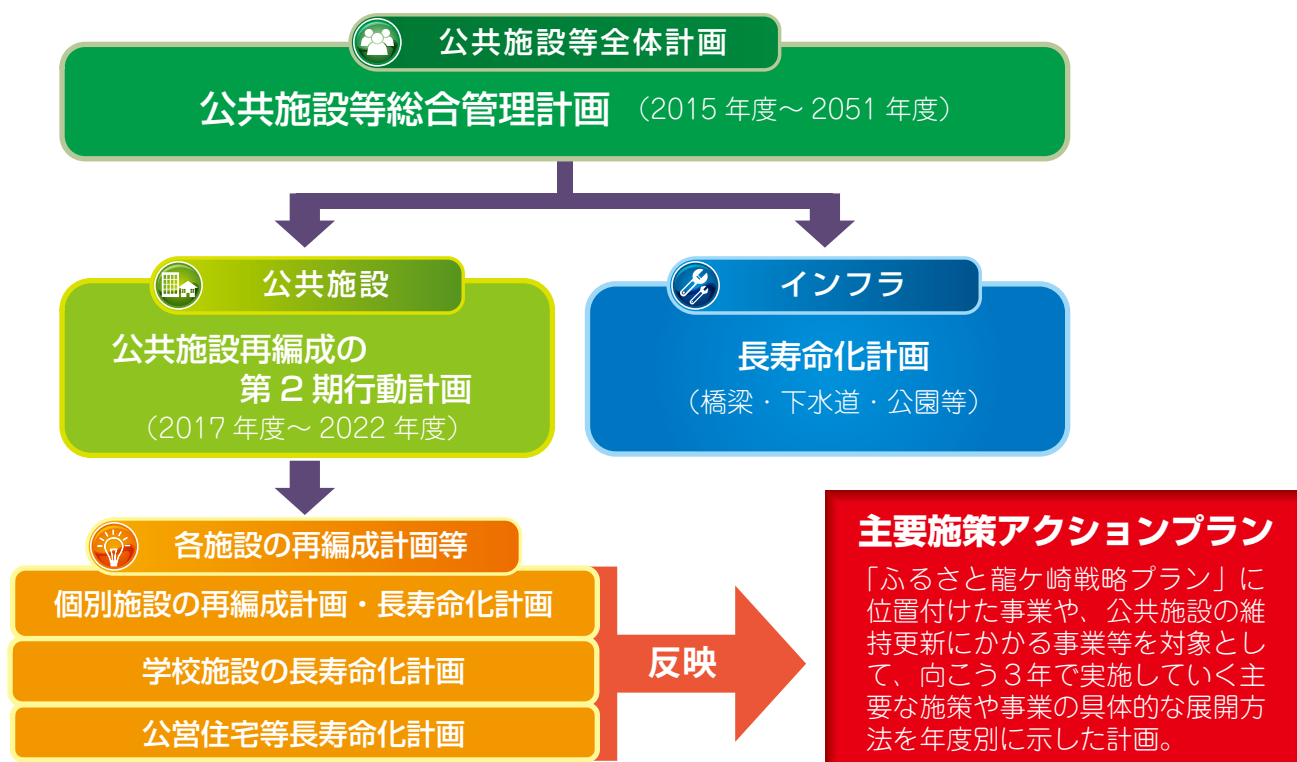
事業名	取組内容	
学校給食センターの一元化による衛生機能強化と食の安全性の向上	【事業概要】 第一・第二調理場を統合し、衛生環境改善、アレルギー除去食対応 【取組内容】 事業手法の調査を実施し、民間事業者のノウハウを反映できる設計・施工一括発注（DB）方式での整備を決定 【今後の予定】 2020年度供用開始に向けた事業化	
保健福祉施設の複合化・多機能化	【事業概要】 保健センター、総合福祉センター、地域福祉会館の3つの既存施設の機能を複合施設に集約 【取組内容】 市民ワークショップ、サウンディング（対話）型市場調査を実施し、基本構想（施設の機能・役割、建設地、整備スケジュール等）を策定 【今後の予定】 2023年度供用開始に向けた事業化	
庁舎機能の再編成と防災機能の強化	【事業概要】 事務量の増加により手狭となった本庁舎の建替えてなく、老朽化した附属棟の建替えて機能を分担し、コストを抑制 【取組内容】 新附属棟を建設し2016年7月に供用開始	
出張所機能の見直しによる市民サービスの向上	【事業概要】 本庁舎の窓口業務との役割を整理し、市民ニーズを踏まえて出張所機能を見直し 【取組内容】 市民ワークショップを実施し、提案を基にショッピングセンターに市民窓口ステーションを2016年7月に開設 【今後の予定】 既存出張所の在り方検討	
統合に伴う有効活用	【事業概要】 旧長戸小学校（2015年3月末閉校）跡地の活用を地域の検討会で協議。サウンディング（対話）型市場調査を実施 【取組内容】 活用方針決定（健康づくりの場として体育館等を活用。長戸コミュニティセンター建替えの際の敷地とする） 【今後の予定】 実施時期の調整	

第2期行動計画の目的

第2期行動計画の目的は、持続可能な地域経営の観点から、主に老朽化が進む学校、保健センターなどの公共施設の統合や建替えを含む適正な機能の確保及び効率的な管理運営を実現することです。第2期行動計画は、本市における公共施設マネジメント施策を明確にし、個別施設の見直しを実現するための計画です。

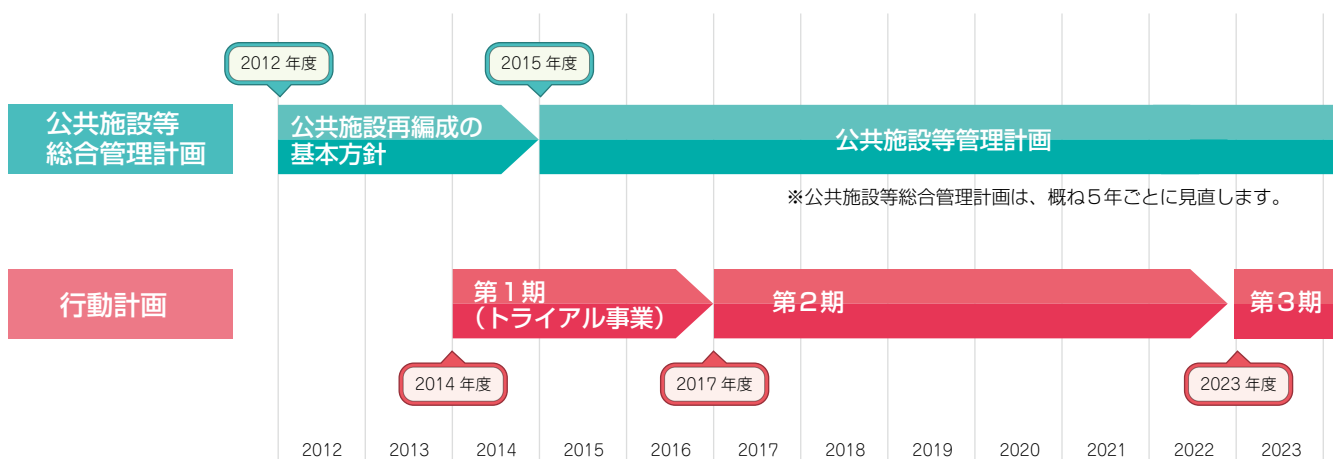
第2期行動計画の位置付け

第2期行動計画は、龍ヶ崎市公共施設等総合管理計画を上位計画とした、公共施設再編成の中期的な期間における行動計画です。第2期行動計画に基づき個別施設の再編成計画・長寿命化計画を策定し、主要施策アクションプランに反映のうえ、事業化を図ります。



計画期間

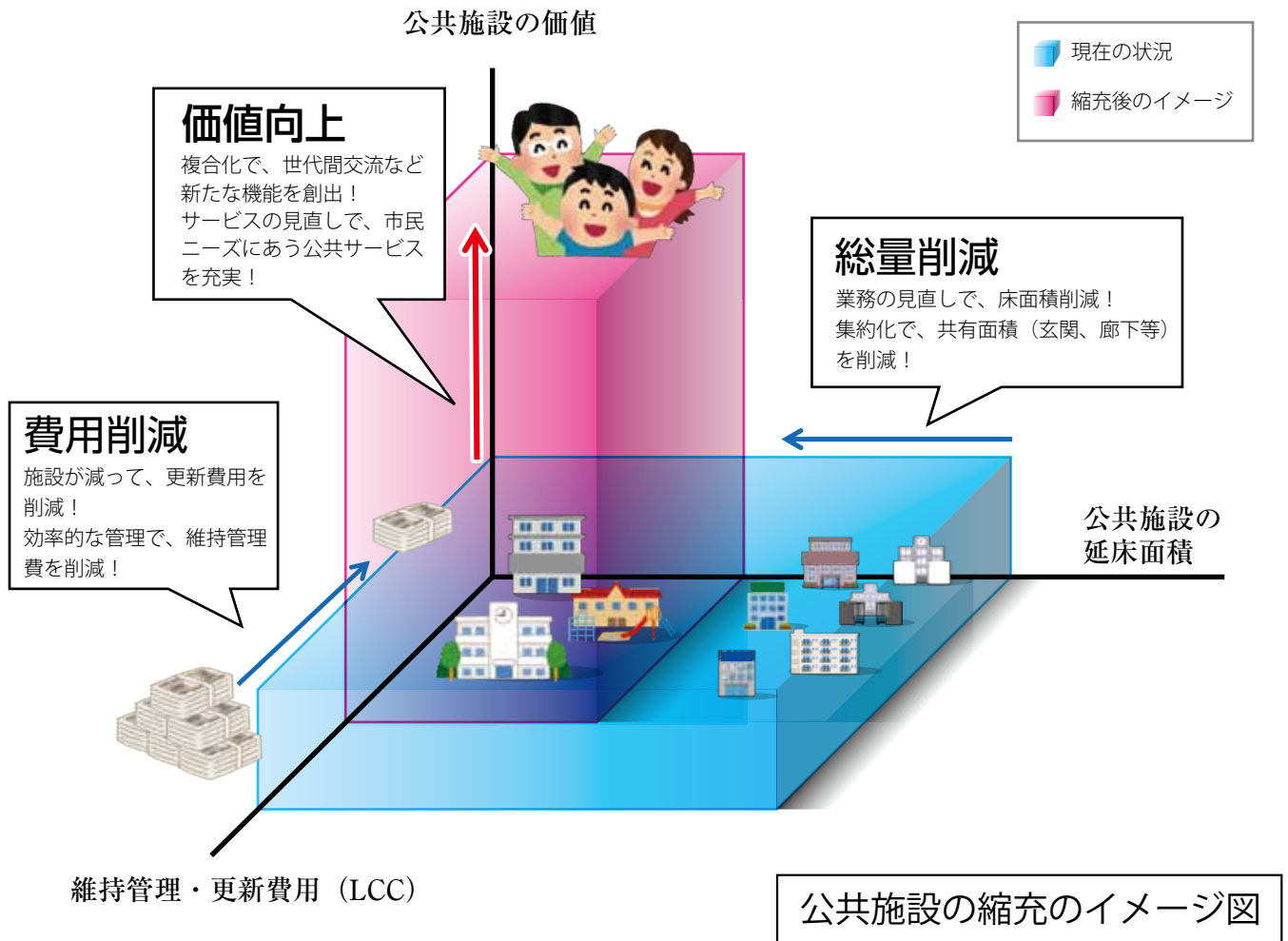
2017年度から2022年度までの6年間



コンセプト 縮充による公共施設の新しいカタチを目指して

「縮充」とは公共施設の面積や施設コストを縮小・削減しつつも、施設機能は強化・充実させるという考え方です。単なるハード面の縮減ではなく、公共サービスの見直しにより、市民にとって公共施設の価値向上に繋がる縮充ができるかが、公共施設再編成の成否のカギになります。

まちの将来像を描き、縮充の考え方をもって、市民と行政がともに考えた公共施設の価値を実現していく新しいカタチづくりに引き続き取り組みます。



第2期行動計画の体系

【総括的取組】（85 施設※₁）

- ◆公共施設マネジメントの着実な推進
意識啓発活動と市民参加
PDCAサイクルの定着
- ◆計画的・効率的な維持管理
施設点検、施設情報整備
計画的予防保全と長寿命化

【個別施設の見直し】（54 施設※₂）

- ◆計画編（縮充による再編成計画）（49 施設）
再編成の戦略協議
再編成プラン・基本構想等策定
- ◆事業化編（再編成計画から事業化へ）（5 施設）
設計・工事の実施

※1 延床面積が概ね 100㎡以上の公共施設 82 施設に加え、公共サービス見直しの観点から民間施設の借上げ施設 3 施設の合計 85 施設

※2 7 ページ「個別施設の見直し」参照

目標 延床面積 30%削減の再編成計画の策定

公共施設等総合管理計画策定時（2015 年度）の延床面積 19.5 万㎡と比較して、30%削減（5.84 万㎡）する個別施設の再編成計画に取り組みます。このため延床面積 6 割を占める小中学校はじめ、老朽化が進行する個別施設 54 施設について将来の在り方、必要な施設規模等の整備方針を検討します。

総括的取組

行政内部組織である公共施設等マネジメント戦略会議による幅広い視点からの検討に加え、外部組織による専門的視点や市民の視点から調査審議する公共施設等マネジメント推進委員会を開催します。これら内外部の組織を活用して、P D C A サイクルによる事業の見直しを毎年行い、進捗の遅れや原因究明、軌道修正等を行います。

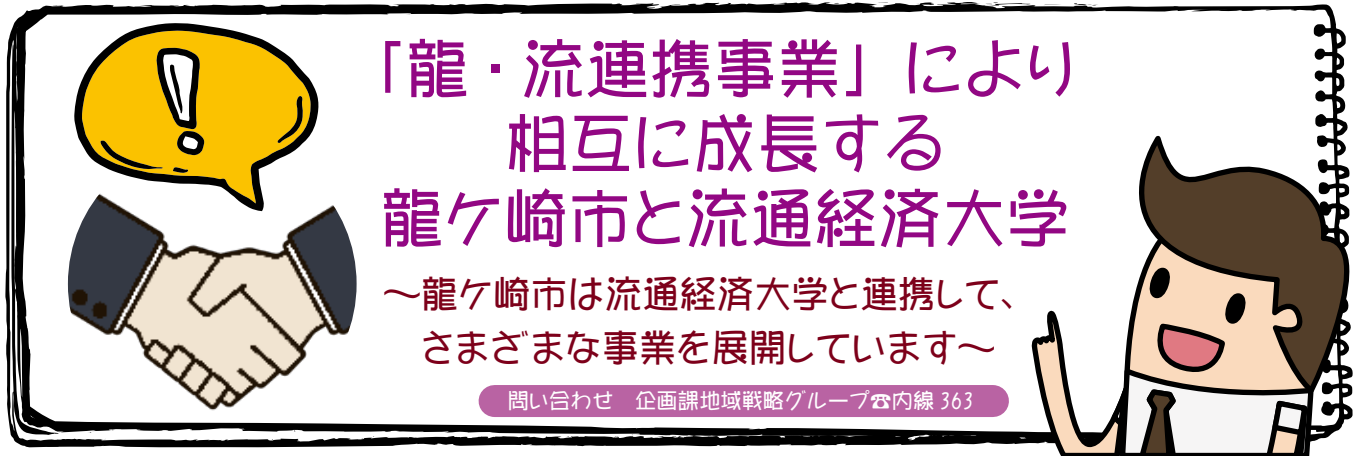
また、施設点検による施設現況の把握、工事履歴情報の整備を踏まえた中期 5 か年保全計画（公共施設の維持管理や更新に必要な費用を算定）策定までのサイクルを確立し、計画的・効率的な維持管理に努めます。

個別施設の見直し

施設の統廃合や利用形態の変更など個別施設の見直しを行う施設は、縮充による再編成計画を立てる計画編 49 施設と、これまでの取組をふまえ事業化（建設）する事業化編 5 施設の計 54 施設を対象とします。

計画編（49）	複合化等による総量削減（39）	小学校（12※）、中学校（6） 保育ルーム（12） 職業訓練校 第二庁舎 市街地活力センター「まいん」 障がい児通所支援事業所つぼみ園 教育センター 市民活動センター 市営住宅（3）
	利用形態及び運営形態の改善（5） 	中央図書館 歴史民俗資料館 文化会館 森林公園（管理棟等） 農業公園豊作村
	他用途への転用（5） 	西部出張所 総合福祉センター 地域福祉会館 学校給食センター第一調理場 学校給食センター第二調理場
事業化編（5）	第 1 期行動計画で再編成計画が確定した施設（3）	新学校給食センター 新保健福祉施設 旧長戸小学校
	政策的な新規事業（2）	道の駅 農産物直売所

※ 旧北文間小学校含む。子ども達のより良い環境の充実を図るため、適正規模・適正配置の観点から再編成を検討します。



「龍・流連携事業」により 相互に成長する 龍ヶ崎市と流通経済大学

～龍ヶ崎市は流通経済大学と連携して、
さまざまな事業を展開しています～

問い合わせ 企画課地域戦略グループ ☎内線 363

流通経済大学龍ヶ崎キャンパス在籍数

(平成29年5月1日現在)

経済学部	経済学科	249人
	経営学科	131人
社会学部	社会学科	166人
	国際観光学科	57人
流通情報学部	流通情報学科	116人
法学部	ビジネス法学科	292人
	自治行政学科	200人
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学学科	905人
	スポーツコミュニケーション学科	101人
合計		2,217人

※大学院を除く

既に人口減少社会に突入した我が国においては、高齢化を伴う社会変化を

連携の必要性

市では、これら多くの知的・人的資源を中心とした「大学」という大きな地域資源を地域の活性化に繋げたいとの思いから、一方で大学は、地域と関わり連携することによる大学教育の向上を目指し、平成16年2月に『龍ヶ崎市と流通経済大学との連携に関する協定（龍・流協定）』を締結しました。以来、相互協力のもと、様々なかたちで龍・流連携事業の取り組みを進めてきています。

「龍・流連携」のはじまり

流通経済大学は1965年に創設され、今年で52年目を迎えます。その間、数多くの学生たちが龍ヶ崎市内で学生生活を過ごしてきました。現在、龍ヶ崎キャンパスにはおよそ2,200人の学生が在籍します。また、教員数は約350人。

要因として、地域コミュニティの希薄化や人材不足といった地域の衰退化が懸念されています。そんな中、自治体と大学が目標を共有し、お互いが連携して、大学に集積する知識や情報、ノウハウ、若い人材力などを活用し、地域の課題解決や活性化、魅力あるまちづくりに取り組んでいくことは重要で

主な取組とメリット

市民大学講座・講演会の開催

市民の生涯学習の場として、楽しく学べる英会話講座をはじめ、スポーツ健康科学部を配する流通経済大学ならではのと言える、正しい歩き方を学べる「健康ウォーキング講座」、血液検査や血管年齢等の測定を伴い、自身の健康管理に役立てられる「血管はつらつウォーキング講座」など特徴ある講座のほか、歴史・自然・文化・子育て等、大学講師の方々の様々な専門知識を活かした講演講座などを開催しています。

体験型観光プログラムの開発

社会学部国際観光学科の授業では、龍ヶ崎市の誇れる地域資源を観光資源として活用するために、龍ヶ崎での体験型観光のプログラム開発を目指しています。学生が研究・開発することは、若者の外部視点による新しい龍ヶ崎の魅力発見が期待できます。

※政策情報誌「未来へ」第20号（平成28年8月発行）にて詳細を掲載しています。

地域と大学にとってのメリット

地域のメリット

- ・大学に集積する知識や情報、ノウハウが活かされる
- ・地域で不足する若い人材力を活用
- ・地域の活性化

・学生や知己住民の人材育成

- ・地域との交流の場
- ・実践の場が得られる
- ・教育・研究へのフィードバック

大学のメリット

このほかにも、ボランティア学生小中学校派遣事業（左ページ参照）や大学講師等の各種審議会への参画、スポーツ大会や地域イベント等への協力など、数多くの連携の取り組みを進めています。これらの事業により、左図に示される地域と大学双方にとってのメリットを享受するほか、大学による地域貢献の場や大学と地域との交流の場が生まれ、お互いの信頼や愛着の増進といったメリットもあります。

国際スポーツ大会キャンパス等招致活動

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、全国各地で事前キャンパス招致活動が動き出しています。本市においては、大学スポーツ界トップレベルで活躍を見せる運動部を有し、これまでも幾度となくオリンピックを始めたとした国際大会に出場する海外代表チームの合宿を受け入れてきた流通経済大学と連携して、国際スポーツ大会キャンパス等の招致活動を進めています。

出典：総務省ホームページ「地学連携」地域づくり活動

子どもたちと学生たちの交流『ボランティア学生小中学校派遣事業』

楽しみ学ぶ子どもたちと学校現場体験で成長する学生たち



連携事業の中でも最も大きな規模で中心的事業となっているのが、ボランティア学生小中学校派遣事業です。子どもたちが日頃の学校生活とは異なる経験をしたり、より専門性のある指導を受けることで幅広い分野に関心を持つきっかけになってほしいとの思いから、「ボランティア学生小中学校派遣事業」を実施しています。

子どもたちにとっては、「いつもの授業」に学生たちが加わることで「いつもの授業」が「いつもの授業」ではなくなります。歳の近いお兄さん・お姉さんが教室にただでワクワクし、そのお兄さんたちの説明や指導に対しては子どもたちの集中力も増して、関心を持って授業を楽しみ、その後の学校生活に繋がっています。

小中学校に赴く学生の中には、将来、教職を目指す学生や保育課程に学ぶ学生も多く、彼らにとっては貴重な現場体験の場であり、学習の機会となっています。また、スポーツリーダー実習を兼ねて参加する学生たちにとっても、運動指導の方法などを実践的に学べる有意義な経験となっています。



救急救命講習

スポーツ健康科学部・ライフセービングクラブと連携した、AEDの使い方などを学ぶ救急救命講習は、平成28年度は、中学校5校と小学校3校で行われました。実習では、各少人数グループ毎に学生が寄り添いながら、優しく丁寧な指導のもとで、とても真剣に学ぶ子どもたちの姿が見られ、命の大切さや命を守るために自分たちができることを真剣に考える良い機会となっています。



親子ふれあい活動

学生の専門知識・経験を活かした内容を取り入れ、学生たちが司会進行や指導などを行います。スポーツ健康科学部の学生によるコーディネーショントレーニング（親子体操）やラグビー部の学生によるラグビールールを取り入れたゲームなど、児童と親が一緒になって体を動かし、笑顔あふれる親子の触れ合い活動を行っています。



学習支援

小学校低学年生にはまだ学校生活に慣れず、授業に集中できない子どもたちもあり、それらの子どもたちや苦手な教科の授業でつまづいたりしている子どもたちに優しく寄り添い学習支援を行ったり、体育や部活動では、スポーツ健康科学部の学生が大学で学んだ知識や自身のスポーツ活動で培ってきた知識を活かした指導を行っています。

このほかにも陸上競技会や運動会等の運営支援、休み時間・給食時間の生活支援など、学生たちが小中学校で取り組む内容は様々です。「ボランティア学生小中学校派遣事業」は、子どもたちと学生たちの双方が成長できる機会であることはもちろん、小中学校の教師たちにとっても、今後の指導方法等をより良いものとするために役立っています。



流通経済大学
スポーツ健康科学部
福ヶ迫 善彦 教授
(ボランティア学生
小中学校派遣事業
担当教員)

実学主義の最前線

流通経済大学龍ヶ崎キャンパスは、他の大学にない恵まれた環境にあります。それは、龍ヶ崎市民、龍ヶ崎市内公立小中学校、龍ヶ崎市役所といった地域・行政一体で大学生の「学びの場」を提供していただいている点です。特に、小中学校との連携は、重要な理論と実践の懸け橋となっています。実験室で行うものとは異なり、教育現場はまさに再現不可能なリアルな学びの場です。子どもにとって一度限りの授業を、大学生が実際に体験できることは、大学で学んだ理論を再認識できる肝要な場に他なりません。

ある大学生は言います。「先生が子どもたちのためにあれだけ計画的に実践し、授業中に修正しているとは知りませんでした」と。またある大学生は「信頼感は、先生と子どもの人間関係で重要になる」と信頼関係の重要性に気づきました。

大学は地域に支えられています。これからも龍ヶ崎市は本学の掲げる実学主義の最前線と考えます。

「常磐線佐貫駅発車メロディー」を

リニューアルしました

～ 龍ヶ崎らしさを感じるメロディーに～



■問い合わせ 企画課地域戦略グループ ☎内線 361

聴いてみてね!



出発進行

市民の皆さんや龍ヶ崎市を訪れた方々に親しみをもってもらい、市のイメージアップを図ることを目的に、東日本旅客鉄道株式会社水戸支社の協力のもと、作業を進めてきました「常磐線佐貫駅ご当地発車メロディー」の導入について、今月3日土曜日の始発から新たなメロディーにリニューアルしました。

新たなメロディーとなった3曲は、市内外からたくさんの応募（応募数 361 通・楽曲数 156 曲）をいただいた楽曲の中から選ばれたもので、元気やワクワク感を大切に、龍ヶ崎をより身近に感じられるメロディーにアレンジしています。

市では、発車メロディーのリニューアルをきっかけに、龍ヶ崎市のPRや龍ヶ崎市民の一体感の醸成、さらには、佐貫駅周辺地域の賑わいを創出し、その効果を市内全体に波及させることで、地域の活性化、魅力の向上につなげていきたいと考えています。

RYUとぴあ音頭 【1番線ホーム／上り】

祭りの曲として市民の皆さんに親しまれている元気が出るご当地ソングです。

爽やかでテンポのよい曲調は、元気とワクワク感を高めてくれます。



かえるの合唱 【2番線ホーム／上り・下り】

幅広い年代に親しまれ、誰もが口ずさめるやさしい曲です。緑豊かに広がる田園風景と400年以上の歴史をもつ伝統行事「撞舞（つくまい）」を連想させるとともに、元気のよいカエルの声に、まちを元気にしたいとする市民の皆さんの思いが込められています。

白鳥の湖 【3番線ホーム／下り】

豊かな自然を有し美しく雄大な景観を楽しめる牛久沼と、その牛久沼の水面を優雅に泳ぐ市の鳥「白鳥」をイメージさせる曲です。発車メロディーを通して、市民の皆さんに愛される牛久沼を広くPRします。



佐貫駅をご利用の際には、ぜひ発車メロディーに耳を傾けてみてください♪